

## 第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

マニラ日本人学校  
授業者：渡邊 花穂

1. 日時： 令和2年2月21日（金） 5校時（13：05～13：50）
2. 場所： E5-2教室
3. 学級： 第5学年2組（男子 7名， 女子 13名 計 20名）
4. 単元名： 「より豊かなフィリピンへ」

### 5. 単元の概要

#### (1) 単元の設定理由

本学級の児童は、社会科の学習でSDGsの定めている17の目標と関連させて、様々な視点から環境や産業などについて考える活動を行ってきた。それらの学習を通して、フィリピンはもちろんのこと、世界的な社会問題や環境問題への関心は非常に高まった。その一方で、それらの問題への関心は高いものの、それらを自分事として捉えることができていない児童が多いと感じる。フィリピンに住んでいるにも関わらず、フィリピンの課題に触れる機会が少ない場所で生活を送っていることが原因の一つではないかと考える。

そのような中、2学期途中にフィリピンJICAの方から出前授業のお話をいただいた。出前授業では、今開発を進めている「鉄道」のことや、JICAがどのような支援活動を行っているのかということ、そしてJICAの支援を受けているのは発展途上国だけではないということなど、様々なことを学んだ。そこで、出前授業の話をもとに、自分たちが関心をもったフィリピンの課題について調べ、改善策として「自分たちにできること」を考えて提案することにした。その改善策をパワーポイントにまとめ、フィリピンJICAの方にプレゼンを行い、助言をいただけるような機会をつくることになった。そうすることで、目的意識が生まれ、児童の活動意欲も増すのではないかと考えた。また、JICAの方に発表をするため、「説得力」をもつ発表にしなければならないことから、問題解決能力を養うだけでなく、聞き手を意識した表現力を高めることができる活動でもあると考える。

フィリピンに住む一人の人として、フィリピンの課題の部分だけでなく、フィリピンの良いところを理解した上で、課題についての解決策を考えることで、現地理解を深めさせたい。

#### (2) 単元の目標

フィリピンの課題に対し、「自分たちにできること」という視点から改善策を考えて提案書をつくり、聞き手を意識した表現方法で発表することができる。

#### (3) 第5学年でつけたい力

問題解決能力： 「環境」について関心をもち、自分なりの課題を見つけ、計画的に課題解決に向けて取り組む。

- 思考力・判断力： 自己の活動を振り返ったり、友だちの見方、考え方を取り入れたりする。
- 情報活用能力： 人・書籍・インターネット等から情報を集め、取捨選択し整理する。
- 表現力： 今までに学んだ表現方法をもとに、聞き手を意識して、自分なりに表現方法を工夫する。

(4) 単元で学ぶ内容

- I フィリピンの良さと課題
- II フィリピンの課題の実態を調査
- III フィリピンの課題への解決策の考案
- IV JICAからのアドバイスを受けて、内容をより発展させる
- V JICAへの第2回プレゼンテーション

6. 単元の評価基準

| 問題解決能力  | 思考力・判断力  | 情報活用能力   | 表現力   |
|---|--|--|---|
| ① フィリピンの問題について関心を持ち、計画的に問題解決に向けて取り組むことができる。<br>指導内容：Ⅲ | ① 課題に対する友達の意見を聞き、取り入れることができる。<br>指導内容：Ⅲ<br>② JICAの方の助言を取り入れ、より良い「説得力」のあるプレゼンテーションを考えることができる。<br>指導内容：Ⅳ、Ⅴ | ① 人・書籍・インターネット等から情報を集め、取捨選択して整理することができる。<br>指導内容：Ⅰ、Ⅱ | ① 聞き手を意識した発表内容を考え、今まで学んだ表現方法をもとに、表現方法を工夫することができる。<br>指導内容：Ⅲ、Ⅳ |

7. 単元の指導・評価計画

- (1) 日本語学級で支援をしている児童の実態 ※日本語学級は希望者に対して週1回程度放課後に実施している。

日常会話における日本語についてはほぼ問題なく、学習能力も高い。文章の読み取りはよくできるが、書くことや自分の考えを表現することが苦手である。また、学習言語が十分でないために教科学習に対する苦手意識が強い。特に社会科や算数科では、その様子が顕著に表れている。そのため、日本語学級の学習では、教科の学習内容についての先行学習を中心に行った。その結果、社会の授業での発言が増えたり、成績が大幅に伸びたりした児童もいる。

また、総合的な学習の時間では、自身の英語の力を生かすなど積極的に活動に参加する姿が見られた。プレゼンテーション当日には、JICAの方の質問に対しても積極的に手を挙げて、返答していた。今後、さらに意欲的に学習に参加し、児童の能力を最大限に発揮できるような活動内容にしていきたいと考える。

(2) 単元の指導・評価計画

| 次         | 主な学習活動  | 指導上の留意点(・)・<br>日本語指導の留意点(○)   | 日本語学級との関連                         |
|-----------|---|---|-----------------------------------|
| 一<br>(5)  | I 日本とフィリピンの良さ<br>フィリピンの課題 (3H)                                      | ・フィリピンの課題を考えることがフィリピンへの悪い印象を持つことにつながるよう、配慮しながら指導する。   | ウェビングの書き方を練習する。【記憶支援・理解支援】        |
|           | II フィリピンの課題の実態を調査 (3H)  | ・児童が調べ学習を円滑に進められるよう、教師も事前に調べる。<br>・調べるための視点を与える。  |                                   |
| 二<br>(13) | III フィリピンの課題への解決策の考案 (5H)<br>テーマ：環境問題について<br>教育問題について<br>治安イメージについて | ・問題を深く考えていけるように、Iの活動で書いたウェビングを活用しながら、解決策を考える。<br>・3つのグループに分かれて活動を行う。  |                                   |
|           | IV JICAからのアドバイスを受けて、内容をより発展させる (4H)                                 | ・JICAの方からの助言をもとに、3つのグループから出ているテーマを1つに絞り、より深い内容の発表にする。<br>○必要に応じて、文章のまとめ方や表現方法について支援をする。   |                                   |
|           | V JICAへの第2回プレゼンテーション (4H)<br>テーマ：環境問題について                           | ・聞き手を意識した表現方法で発表する。<br>◆繰り返し、発表練習を行う。   |                                   |
| 三<br>(3)  | VI 環境問題について改善策を実施する機関の考察 (3H)                                       | ・川が汚れる原因を短冊カードにまとめる。<br><br>・自分たちが考えた改善策を実施できるのがどの機関もしくはどの人たちなのかを整理する。<br>○表現活動が難しい場合には、カードを動かして自分の意見を表現するように指導する。<br>・環境問題を解決するためには、全員の協力が必要であることが可視化できるようにする。<br>・授業後、学びを可視化できるように作成した「川の汚染解決シート」を掲示する。 | 川の汚れる原因について体験活動を通して学ぶ。【理解支援・記憶支援】 |

|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
|  |  | ・前時の学びをまとめた「川の汚染解決シート」をもとに、自分たちのこれからの生活について考える。 |  |
|--|--|---|--|

8. 本時の学習

(1) 本時のねらい

川の汚れている原因をまとめたカードを手がかりにして話し合い、フィリピンの川の環境問題の改善について、自分なりの考えをもって問題解決に向かうことができる。

(2) 本時の展開 (20 / 21 時間)

| 時  | 学習内容   | 指導上の留意点・<br>日本語指導の留意点 (○)<br>評価方法 (◆)  | 準備物  |
|--|--|--|--|
| 5  | 1. 川が汚れている原因について想起する。<br>2. 本時の課題を確認する。  | ・川が汚れている原因を当てるゲームをする。<br>○川の汚れている原因をまとめたカードを提示する。  | 川が汚れている原因が書かれたカード  |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                 ◎川の環境を改善していくためにはどうすればよいのかについて、みんなで議論して自分なりの考えをもとう。             </div> |  |  |  |
| 25   | 3. 話し合いを通して、川が汚れている原因が書かれたカードやその解決方法が書かれたカードを分類する。<br>(6つの立場)<br>・フィリピンに住むフィリピン人<br>・フィリピンに住む外国人<br>・フィリピン政府<br>・フィリピンにある工場<br>・川の近くに住む人々<br>・JICA<br><br>4. 自分たちの意見を発表する。<br><br>5. 3. の活動を通して、気付いたことを班で話し合い、ワークシートにまとめる。 | ・川が汚れている原因を5つの立場のどこで解決すべきものなのかをしっかりと考えることができる場の設定をする。<br>○自分の意見を表現できなくても、カードを動かして自分の意見を可視化できるように工夫する。<br><br>○書くことが難しい児童は、書くための視点を与える。もしくは、その前の活動で作成した分類表を参考にしながら、書けるように支援する。<br>◆今まで学習してきた知識や情報を整理しながら、自分なりに問題解決に向かうことができる。【ワークシート】 | ・川が汚れている原因が書かれたカード<br>・解決方法が書かれたカード<br>・6つの立場が書かれた表<br><br>・ワークシート |

|    |   |  |  |
|----|---|--|--|
|    | <p>⑩「川を改善するために大切なことはなんだと思いますか。3.の活動を通して、気付いたことを書きましょう」</p> <p>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川が汚れている原因を解決する立場は一つではなかった。</li> <li>・みんなが協力しないと川はきれいにならないことがわかった。</li> </ul> |  |  |
| 10 | 6. まとめ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の意見をもとに、川の環境を改善していくために必要なことを確認し、次時の活動意欲につながる声掛けをする。</li> </ul> |  |

10. 板書計画

2 / 2 1 環境を守るわたしたち

⑩川の環境を改善していくためにはどうすればよいのか、学んできた情報を整理して、自分なりの考えをもとう。

話し合っ気付いたこと

- ・
- ・
- ・

| フィリピン人 | 外国人 | 政府 | 工場 | 川に住む人 | J I C A |
|--------|-----|----|----|-------|---------|
|        |     |    |    |       |         |

まとめ

川の環境改善をしていくためには、企業や行政だけではなく、わたしたち一人ひとりの協力が必要である。